

平成27年度第12回長野市公共施設適正化検討委員会 議事録	
開催日時	平成28年3月23日(水) 15:00~16:50
場 所	長野市役所第一庁舎7階 第一委員会室
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、中屋委員、西堀委員、西村委員 [事務局(行政管理課)] 寺澤総務部長、丸山行政管理課長、村上行政管理課長補佐兼公共施設マネジメント推進室長、大塚行政管理課長補佐、渡辺政管理課係長、上條行政管理課主査 [事務局支援] 一般財団法人長野経済研究所：中村部長代理、山岸研究員、藤原研究員
議 事	1. 議 事 (1) 公共施設マネジメント推進の現状と今後の予定について (個別施設に係る報告) ア 戸隠地区の保健福祉施設の再編について イ 大岡アルプス展望ふれあいセンターについて (2) 住民自治協議会向けの出前講座について (3) 啓発リーフレット(案)について

【次 第】

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

審議事項

(1) 公共施設マネジメント推進の現状と今後の予定について

(個別施設に係る報告)

ア 戸隠地区の保健福祉施設の再編について

イ 大岡アルプス展望ふれあいセンターについて

(2) 住民自治協議会向けの出前講座について

(3) 啓発リーフレット(案)について

4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) 公共施設マネジメント推進の現状と今後の予定について

〔資料により、公共施設マネジメント推進の現状と今後の予定について、事務局より説明〕

委 員 長 質問、意見又は要望等ありましたらお願いします。

委 員 長 中身の問題とはちょっと違いますが、GISなど使って見やすくしてあって良いこ

とだと思います。ただ5ページはまる印と文字とがお互いに消し合っている感じがしないでもない。両方とも見えにくい。見やすいように、あるいは見た人が直感的にパッと分かりやすいものであればよい。

事務局 資料はイメージということでお示しをしております。まだ公表できる段階に至っていないと我々認識しているところがございますので、敢えて小さく、見づらくさせていただいているところがあります。次回以降、御審議いただくときには、A3版の大きいもので御覧いただくようにしたい。

委員長 時系列で比較したい。こんなふうに大きく変わったんだと。合意形成のやり方ですけども、お互い共通の土俵の上で本音で話してやっていこうというふうにするか、ちょっと何だか分からないけれども、みんなできるだけ意見少ない中で決定したものでやっていこうっていう、どっち取るかですけども。

これは指標あるんですか。指標上はそうなっているっていうだけで、絶対ここから動かせないっていう話じゃないけれども、こういう指標で並べるとこうなりますみたいな指標っていうのはあるんですよね。

事務局 正式にまたお示しする際には、再度こういう基準でやってこうなりましたというのは説明させていただきます。

委員長 長野市のモデルとして芋井だけですか。

事務局 中山間地のモデルということで芋井を進めていますが、平行して市街地の地区も考えています。それは今選定中ということでございますが、あとは篠ノ井駅の西口に市有地がございますので、その市有地、駅に近いという利点がありますので、そういったものを公共施設の再配置に活用するというモデルとして、検討していきたいと思っておりますし、また、市民プールにつきましては、長野市、他市に比べて数が多いという部分もございますので、夏場だけ使う施設という意味合いもありますので、市域全域として市民プールについては、ちょっと再編を検討していきたいと考えています。

委員長 それを7月頃までにかっこ案みたいな感じになる、そんなイメージで捉えてよろしいですか。

事務局 結果を求めるのも1つの目的ではありますが、そこに辿りつくまでのプロセス、どういった方たちに参加いただいて、どんな議論をして、そこにもっていくかという、これが一番大事なことでありますので、どういうふうにやってまとめたらいいのか、あるいはまとめられないのかというようなこともありますので、その合意形成、プロセスを他の地区でもできれば、同じやり方っていうのはなかなか難しいとは思いますが、それを参考にいろんな地区で進めていきたい。

委員長 他にございますか。なければ次に進めさせていただいてよろしいでしょうか。それでは住民自治協議会向けの出前講座についてお願いします。

## (2) 住民自治協議会向けの出前講座について

〔資料により、住民自治協議会向けの出前講座について、事務局より説明〕

委員長 ありがとうございました。報告ですけれども、皆さんから何か感想でも意見でもあれば、ございますか。

委員 これからも続けるということですね。

委員長 誰が見ても妥当な線じゃないでしょうか。(スパイラルについて) 技術的にはアジアでそういう技術をもっているのはそこだけということで、きっと日本の大手の建設会社でその技術をもっているところは国の補助でもいいから、その技術、せっかくここまで維持してきたものをやってほしいなという説明ありましたよね。そのへんの兼ね合いですね。国にそれだけの余力があるか。市で維持しろといってもどうかっていうのは、皆さん誰も普通に考えておられることじゃないでしょうか。

委員 あと、女性が少ない。

事務局 住民自治協の役員さん、だいたい区長さんが大多数でございまして、やはり男性が多いということであります。

委員長 昔の旧村とか、そのままじゃないけど、それに近い形でシステムとしては急に変えられないんでしょね。県や市の委員会、国の委員会、国も女性は少ない。県と市は委員会ではだいぶ女性の割合増やしてきましたね。他によろしいですか。よろしければ続きまして、啓発リーフレット(案)についてお願いします。

### (3) 啓発リーフレット(案)について

〔資料により、啓発リーフレット(案)について、事務局より説明〕

委員長 はい、委員の皆さん何かお気づきの点とかあればいかがですか。

委員 こういう形で 1,000 部出てって市民の皆さん方見るわけですが、説明会とかワークショップの関係については必要以上に告知しないとまずいと思う。普通は例えば回覧で回す情報がありますが、ああいう情報で家庭に回して告知したからいいんだってことじゃなくて、そこにもうプラスアルファの告知をしておかないといけないのでは。今回この件については、普通の告知よりもしっかりやった方がいい。

事務局 これから開催する各論の説明会ですとか、あるいは市民ワークショップについても、できるだけ広く参加いただける、誰でも参加いただけるという説明会にしていかなければいけないと考えています。

委員 時間をかけなきゃいけないし、回数もかけないといけない。要するに仕事量増えるかもしれないけれども、それをクリアしていかないと方向性が出てこない。ここにこういうふうを書いてあるけれども実態はもっとボロボロだったなんていったら目も当てられない。

委員 これどうやって配布をするのですか。

事務局 支所の窓口ですとか市の施設で手に取って持ち帰りいただけるようにはしたいなと考えております。自治協の役員さんなどにもお配りするようになるんだろうと思っ

ていますが、特別委員会でも同じ質問いただきまして、全戸配布するくらいのお金をかけないといけないんじゃないかという御意見もいただいております、その予算はないのですが、できるだけ有効に広く伝わるような活用の方法は考えていかなきゃいけないと思っています。

委員 文字の量が多いだけに分かる人じゃないと入っていかない内容が多い。若い人たちが見るきっかけを作ってあげてほしい。市町村でもSNS、フェイスブックだってやっていますし、そういうのでどんどん意見もらって、その意見が全部反映されるわけではないけど、意見が出てくる場があるってことが、今は大事。それで、短期間で決めるとなったら、そういうのも利用してもいい。

委員 若い人たちに発信させるのもいいですよ。ここで書いた俊英高校の人たちに他のところからどんどん発信して繋がりの中で、それこそ館内でSNSやってくれる市役所職員もいるから、その人たちにリンクしてシェアだけしてもらえば、そこから広がるかと。

事務局 市のホームページですとか、ツイッターとか、そういったものでどんどん情報発信していきたいと思っておりますし、できれば記者会見とかそういうところでもPRしていきたいと思っております。作ったからには、今委員さんおっしゃられたようにいろんなチャンネル通じて情報発信をして、とにかく読んでいただく、見ていただくということが第一だと思います。

委員 ちょっと字が多いですね。日本人は行間を読む能力に長けているから、もうちょっと字数を減らす方向で。

事務局 字が多いということであれば、キーワードさえ載っていれば表現の仕方を工夫して、もうちょっと字を少なくしたいと思います。

委員長 とにかく若い人たち、そっちに関心もって市のそういうものに対して投稿するなり見るなりしてもらっていいんじゃないですか。そういう戦略ってこれからますます必要になってくるかなと。他によろしいですか。全体を通じて何かございますか。

委員 出前講座の中にも多くあるんですけども、その対象になる施設が第三者である我々以上に地域のコミュニティの求心的な役割になっている施設であるっていうのは、数字合わせの中で判断しているから分かりづらいところがある。何を基準にして公共施設を20%減らしていくんだっていうのはかなり精度高くやっていかないと、この中にもあるように総論は賛成だけど各論は如何なものかという話に絶対落ち着くはずだと思う。

委員 自治協の役員さんじゃなくて、その方々がお声を掛けた方々でもある程度の人たちが、年代層も女性も入った方々の意見も聞いておかないと自治協さんの出前のお話だけで判断はちょっと難しい。

事務局 もちろん自治協だけということではなく、これをまず第1歩として、自治協の会議だとか総会だとか、そういう折にちょっとお願いして時間をいただいて、説明する中

で、地元の課題やこういったものに関する御意見などを吸い上げるという目的もあります。いろんな意見がありますので、今後いろんな階層の方が集まったところに出席して、同じようなことをしないといけない。

委員 大きな数字が1番の説得力にもなる。それはきちっとした精度の高いデータを出してあげて、1つの基準を数字で持ち合わせていくということが必要。さらにその中でも求心的な役割はどうなんだろう、地域の雇用の促進に役立っている施設なんだろうとかですね、いろんな帯部分でさらにそのへんを細かく精査しながら最終的には整理していくという方向で。全員が賛成なんか多分ないと思うんですね。そのへんの難しさを整理しないといけない。

委員 出前講座について、みんなマイナスの意見ばかり出ますね。たいてい暗い感じになります。ちょっとこう夢のあるような書き方とかビジョンみたいなものが出てこないかなど。例えば効率化することによってこんないいことがある、という新しいことが出てくるのかってことが今の段階では見えてこない。

委員 確かに複合化って聞くとなんか、ただ1カ所にまとめただけに感じるんですけども、今のお母さんたちの気持ちとして考えると心配なのは、子どもを預けて働きに行くのにどこに預けよう、どうしようって思うときに、そこに老人会が一緒について見てくれる、ああ楽だわってという気持ちの安心さが複合化だとくるなってなると、じゃあいいんじゃないとか。多分、年代ごとのポイントがあるんですね。

委員 あくまでネガティブではなくてポジティブに流れをつくっていくということを織り込んでいったほうがいい。長野市は大変厳しい財政状況を迎えているんだということを、当然市民は納税者ですから、納税した分に対する、自分に長野市は何をしてくれるんだという期待感がある。それが根本的に施設が少なくなる。今まで使っていたところに行けなくなる。車で行かなきゃならないけどもう免許証は返上してある。そういう社会というのは自ずから2040年くらいまでには間違いなく来るわけで、そのあたりを見越した、あくまでポジティブに市民に対して、これとこれと、公共施設をこれだけ減らすことによってプールできる資財っていうか、お金を今度皆さんの、例えば子育て世代のお母さんたちの保育料、若しくは学費に回ることも考えられる。あとは扶助費にも回って皆さんのお手元にもっと介護豊かな施策をとれるようになるとか、そういうこともやっぱり次の啓発活動には入れ込んでいかないと。

委員長 議決するとかそういう会ではないので、今日のところは、また次に繋げていただくということで、このあたりで閉じさせていただいてよろしいでしょうか。

#### 【閉 会】

事務局 第12回検討委員会の開催については、改めてご通知します。以上をもちまして、「第11回長野市公共施設適正化検討委員会」を閉会します。